

荒野に逃れて

2026年7月19日

ヨハネの黙示録 12・6、13、14
マタイの福音書 24・15～22
ミカ書 2・12～13
ダニエル書 11・36～45
エレミヤ書 49・13～14

序：ハルマゲドンの戦いは八段階で行われる

- ①反キリストと同盟軍がハルマゲドン（イズレエル平原）に召集
- ②バビロンの崩壊・滅亡（反キリストの支配する統一国家、首都）
- ③エルサレムの崩壊
- ★④ボツラにいるイスラエル人を反キリストとその軍隊が攻撃
- ⑤イスラエルの国家的回心（悔い改めとメシアへの信仰）
- ⑥キリストの地上再臨
- ⑦ボツラ～ヨシャパテの谷（エルサレム）までの戦い
- ⑧勝利の主、オリーブ山に立つ

I. 避難するイスラエル人 ⇒ 離散

(1)エルサレム陥落の日以前

(2)イスラエル国家は患難期の間ですでに反キリストにより崩壊

(3)主が彼らを守り養う場所を用意

- | | | |
|------------|-----|------------|
| ①山 | マタイ | 24・16 |
| ②荒野 | 黙示 | 12・6、13～14 |
| ③ボツラ（羊のおり） | ミカ | 2・12 |

(4)ボツラ（ハル）、ペトラ（リヤ）

- ①エドムの一部（セイル山脈の中）

今日でいえば、ヨルダン（イスラエルの東隣国）の南部

- ②地形

難攻不落 岩山の中に2キロメートルほどの狭い道、両方は岩がそそり立つ
羊のおり：羊飼いが羊を出し入れの度に数える（一頭づつ狭い通路、門、
だが、中は広い空間）

(5)反キリストが多くの国を征服（患難期の間）した ダニエル 11・36～45
11・41 征服されなかった国がエドム、モアブ、アンモン（すべて現在はヨルダン）
廃墟になっているが、ユダヤ人の逃れ場として待機

Ⅱ. 反キリストの軍勢

- (1)先にエルサレムを攻撃、犠牲を払い、陥落させた
- (2)抹殺しようとしたユダヤ人たちはすでにエルサレムを出て逃避した後だった
- (3)反キリストと大軍勢は、エルサレム → ボツラに向かう
ボツラに避難しているユダヤ人を皆殺しにするため
エレミヤ 49・13～14

Ⅲ. 結び

- (1)神は約束のとおりになるよう、働かれる
イスラエルを滅ぼすのではなく、イスラエルの残りの民を救うという最終目的
- (2)私たちの思いや考えの及ばない方法・仕方で動かす
異邦人を救い、イスラエルに妬みを起こさせ、ついには悔い改めて信じるため
- (3)絶体絶命の時も、神はご自分の民のために脱出の道を備えておられる
- (4)戦いの最前線に立たれるのは、主イエス・キリスト、我らの王・救い主である
- (5)私たちはほかのどこでもなく、主に助けを求めて祈り叫ぶことができる
四面楚歌であっても、上は常に開いている
神は私たちが、主を信頼して困窮を訴えるのを待っておられ、答えてくださる